

医療ニーズ;輸液ポンプが終了を知らせる機能



医療ニーズ提案部門
滋賀医科大学 附属病院 看護部

「効率的な点滴(交換)をしたい」

■看護部ホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>

■ニーズの背景

- 輸液が終了すると、アラームがなって、それを聞いた患者さんがナースコールなどでナースに輸液が終了したことを知らせる。
- しかし、夜間患者が眠っていたり、意識のない状態の場合は患者から知らせてくれない。また、看護師も終わる時間をある程度把握していても、他の業務で忘れてしまう可能性が有る。
- 引き続き薬剤を投与しなければならないとき、その投与の時間が遅れてしまう。

■現在の対応方法

- 患者に終わったことをナースコールで知らせてもらう。
- 看護師が時間を覚えておき、その時間に点滴を変える。

■使用頻度や市場性(マーケットサイズ)に関する情報

- 滋賀医大ベッド数: 612床
- 利用率90%(推定)で、入院患者の30%(推定)が夜間も点滴すると、 $612 \text{床} \times 90\% \times 30\% = 165 \text{名}$ の患者が夜間を受けている。

【イメージ・参考例】PHS等と連動した輸液ポンプ



機能アイデア例

点滴が終わったことを看護師のPHS等に知らせる



看護師が点滴の交換に向かう

お問合せ先

滋賀医科大学 研究推進課 産学連携係

電話: 077-548-2847

メール: hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp